

高雄市要覽



・昭和十一年度・

高雄市要覽

(昭和十一年版)

昭和十二年二月二十三日印刷
昭和十二年二月二十八日發行

〔非賣品〕

高雄市役所

高雄市山下町一丁目十七番地

印刷人

濱田磯龜

高雄市山下町一丁目十七番地

印刷所

濱田商店印刷部

高雄市要覽

目次

一	沿革	領臺前	領臺後	地名考	皇室と我高雄	一		
二	地理	位置	地勢	氣象	面積	區制の確立	土地	五
三	戶口	戶數及人口	戶口動靜	職業別戶數	二〇			
四	史蹟名勝	縣社高雄神社	壽山	壽山館	皇太子殿下御登山記念碑	兒玉臺	三	
		灣總督壽像	淨水池	杉本晉吉氏記念碑	壽山ゴルフリンクス	壽		
		海水浴場	西子灣溫浴場	臨海道路	東球場			

五 市 政 機 關……………一九

市政機關 區制の確立と區會の結成 官吏及吏員

六 財 政……………二三

豫算 諸稅及公課

七 社 寺 宗 教……………三〇

神社 神道 佛教 基督教 舊慣寺廟

八 教 育……………三四

學齡兒童 幼稚園 小學校 公學校 補習學校 中等學校

九 社 會 教 育……………三九

圖書館 少年團 青年訓練所 國語講習所 各種講習會 教化

聯合會 講演活動寫眞

一〇 社 會 事 業……………四六

方面委員 助成會 職業紹介所 保健保護教化 市營住宅方面と戸

數 小公園 公設質舖

二 產 業……………五

產業生產 農產 畜產 屠畜 林產 水產 水產加
工 漁獲仕向地 水產養殖 漁船及乘組員 工產と種類

三 金 融 貿 易……………七

銀行金融 郵便貯金受拂 信用組合 貿易 貿易主要品 中央
卸市場 家畜卸市場 小賣市場

三 保 健 衛 生……………九

醫療機關及分布狀態 傳染病 種痘 汚物掃除屎尿汲取 屎尿殺
菌池 撒水道下水溝 埋火葬

一四 水 道……………八五

沿革 給水施設

一五 土 木 及 營 繕……………八七

一六 消防機關

九一

一七 交通

通

九三

港勢

高雄港と諸港間航程

定期航路

軍艦入港

船舶入港

小形汽船以下入港

船客の出入

驛勢旅客

鐵道貨物

手小荷物

局勢特種郵便物

貯金及爲替件數

金額

通常郵便物

小包郵便物

電話

郵便函

切手賣捌所

恩給年金簡易保險

一八

官公署其他

一〇六

官公署學校

銀行會社

組合其他

高雄市要覽

第一 沿革

領臺前

高雄は元打狗と稱し又東港に對して西港とも稱へられ遠く三百年前に日本人の來往せし形跡あり。次いて和蘭人占據時代にはバタビヤ方面との交通ありし點より考へ當時已に港灣としての價值を認められたるは容易に想像し得る所なり。其の後清國の版圖となりし以來南支那方面の汕頭、厦門、香港等を初め上海、天津等との交通は支那民族の移往來往と共に次第に頻繁となり清の咸豐年間即ち西歷一八六〇年頃には基隆、淡水、安平と共に開港場となり、對岸方面との通商一層盛んになりたるも素より大船巨舶の碇泊するに適せず、當時の打狗港は港口に岩礁横はり干満時に於ける潮流又激しきため船舶の出入に危険多く戎克船の如き港口通過の際には盛んに銅鑼を鳴らし、或



高 雄 市 街

は金銀紙を焚いて、只管神佛の加護を祈願せりと傳へられ現狀と比較し今昔の感深きものあり。市街も亦當時は僅に港口の兩岸旗後及哨船頭の一角に限られ、陋巷錯雜を極めたる一小市街に過ぎざる状態なりき、明治二十八年八月皇軍當地を占領する爲上村海軍大佐の率ゐる軍艦吉野外數隻と清の守將萬田標の指揮する守備兵との間に砲火を交へたるが數時にして陷落す。

領臺後

領臺當時軍政なりしも明治二十九年四月二十日臺南縣鳳山警察署打狗警察官吏派出所を設置され、翌三十年三月十四日打狗分署、同年六月十日鳳山縣打狗警察署、同三十一年七月九日鳳山辨務署打狗支署、三十四年十一月十七日鳳山廳打狗支



の 一 部

廳、同四十二年十月二十五日臺南廳打狗支廳に改められ、大正九年九月一日地方官々制の改正に依り、高雄州廳竝に高雄郡役所を設置され、次いて同年十月一日地方制度の改正に依り高雄街となり、高雄郡役所の管轄區域に屬したりしが越えて十三年十二月二十五日高雄郡役所の廢止と共に市制を實施し、更に昭和七年十二月一日には行政區域の變更に伴ひ岡山郡左營庄の内前峯尾及桃子園の二大字を編入され今日に至れり。

市街も當時は僅に現今の旗後町及哨船町の港口兩岸に一小街衢を形成し居たるに過ぎず、他は鹹湖狀の淺水游泥地たりしが縦貫鐵道の敷設に當り、之が用地の埋立を施行し、明治四十一年築港工事著手を

見ると、共に第一次市區計畫發表され高雄川以西の海埔、鹽田、魚塭等約五十萬坪の市街地の埋立成りて現在の市街を形成するに至れり、今や港灣も工事著々進捗し二十有餘隻の航洋汽船の碇泊と荷役を同時に爲し得る設備を有し本島北方の門戶基隆と相駢んで南北の二大要港を成し市勢は逐年驚異的に伸展しつゝあり。

地名考

「タカオ」なる稱呼の起源に關する傳説竝に其の別名甚だ多きも元高雄附近に幡居したる平埔蕃「マカツタラ」部族の（タアガウ）社の名より出づと云ふ説眞なるが如く鳳山縣誌及重修臺灣府誌には打鼓港とあり。最近迄打狗と稱へられしが大正九年八月府令第四十八號を以て高雄と改めらる。

皇室と我が高雄の事蹟

曩には打狗と稱したる一小街衢に 閑院宮載仁親王殿下 同妃殿下 北白川宮成久王殿下 久邇宮邦彥王殿下 同妃殿下の御成を仰ぎ越へて高雄街となり。大正十二年四月二十一日畏くも 今上天皇陛下皇太子殿下にましませし頃親しく聖駕を迎へ奉り全街民の光榮今尙新たなる所なり。同十三年十二月二十五日市制を實施し、爾來年を閲すること茲に滿十一年此の間本市の最も光榮とする我皇族殿下

の御成を謹記し奉れば大正十四年六月三日には 秩父宮雍仁親王殿下御渡歐の砌り御成を仰ぎたるを始めとし翌年四月十日には第一艦隊御乗組の高松宮宣仁親王殿下を同年十月三十日北白川宮富子大妃殿下越えて昭和二年十一月十二日朝香宮鳩彦王殿下を翌三年五月八日久邇宮邦彦王殿下を同四年十月二十六日東伏見宮周子妃殿下を昭年六年六月七日賀陽宮恒憲王殿下を同八年七月九日第二艦隊御乗組の伏見宮博義王殿下翌日十日には高松宮宣仁王殿下同日第一艦隊御乗組の久邇宮朝融王殿下の御成を仰ぎ更らに同年九月二十六日には伏見宮博恭王殿下同十月三日には梨本宮守正王殿下の御成を辱ふし重々の光榮に全市民王道無限の惠澤に浴し皇室の彌榮を壽き奉れり。

第二 地理

位置

本市は高雄州廳の所在地にして南部臺灣唯一の要港を有し、東經一二〇度三七分、北緯二二度三七分即ち高雄州の西部に位し北は岡山郡に東南は鳳山郡に隣り西南一帯は海洋に面し東西一里二九丁南北三里二丁三方里二七の廣袤を有す。

本島の北端基隆を距ること海路二二四哩、鐵路二四九哩一にして母國重要港たる長崎へ八五〇哩、門司へ九五一哩、神戸へ一、〇五四哩、横濱へ一、三五五哩の航程あるに拘らず、南支南洋方面の通商港たる厦門へ一六五哩、福州へ二三四哩、汕頭へ二四〇哩、香港へ三二五哩、廣東へ四〇五哩、「マニラ」へ五五二哩の近距離に位し、南洋諸港は勿論北支方面への通商と相俟つて産業經濟上絶好の位置に在り。

地 勢

蜿蜒三里幅員百間内外を有する旗後半島に依りて外海と隔絶されたる入江狀の高雄港は市の西北部に屹立する壽山と旗後半島の突端を形成する旗山とに依りて港口を扼し航洋汽船の出入自由なるのみならず、陸上の文化的施設と相俟つて運輸交通至便なるが上に天惠的一大産業地域たる中南部臺灣を後方に控えたる理想的地勢に置かる市内東方一帯に擴がる平野は曹公圳の灌漑地域にして地味肥沃農産豐穰なり。

氣 象

本市は北緯二二度三七分の熱帶圈内に所在するを以て直に暑熱の甚しきを聯想するも盛夏の候に於て南部臺灣に恵まれたる涼味に依つて自然に調和され平均氣溫二十四度内外を示し、雨量は常に暑熱期に多くして荷役繁忙期に入りて降雨の稀れな

るは港灣都市として實に恵まれたる一大特長とも謂ふべく風光明媚の健康地なり。

気

温

(昭和十年中)

區分	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	最高	最低	平均
氣 温	一八・九 ^度	一九・四	二三・七	二四・九	二六・八	二七・七	二七・七	二六・六	二六・五	二六・五	二四・二	二〇・三	三五・七	八・〇	二四・三
温 度	七〇・三 ^度	七五・八	七四・七	七七・四	七九・三	八二・三	八四・二	八七・七	八〇・三	七九・一	七五・三	七五・二	八八・〇	三〇・七	六八・〇
雨 量	二・九 ^耗	一四・七	三九・三	一五六	三三六	三六一・三	八九二・八	六八八	一〇五・九	二五・九	〇・五	〇・七	二〇・四	—	二〇・七

面積

本市は元打狗區、苓雅寮區、埤子頭區の三區に大別されしも大正九年十

月一日地方制度の改正に依り高雄街となり。之を高雄、中洲、前鎮、戲獅甲、林德官、過田子、苓雅寮、前金、大港埔、大港、三塊厝及内惟の十二大字に分割せられたるまゝ、大正十三年十二月二十五日市制實施となり、越えて大正十五年一月二十六日町名改正により十四町十一部落に分割され、昭和七年十二月一日行政區域の變更に依り岡山郡左營

庄の内前峯尾及桃子園の二部落を市に編入せられ、廣袤三方里二七（内港及河川を含む）市街を分ちて十四町十三部落に區劃さる現區劃即ち左の如し。

旗後町	平和町	綠町	哨船町	壽町	湊町	新濱町
山下町	田町	鹽埕町	北野町	榮町	堀江町	入船町
中洲	前鎮	戲獅甲	過田子	林德官	苓雅寮	前金
大港埔	大港	三塊厝	内惟	前峯尾	桃子園	

土

地

昭和十年末現在

地目	有租地	無租地		計
		官有地	民有地	
田	一五〇一・六二九 ^甲 二	五三・三三七 ^甲	一	一五五四・九六三 ^甲 三
畑	六九六・〇三五六	一六・六〇六六	一・五七七	七四・二二三九
養魚池	六七・四三二	四〇・三三四	一	一〇七・七六八五
建物敷地	二七八九七三	八三・一六五二	三五・七〇六八	四〇六・七六九二

池	山	原	祠	墓	鐵	燈	鐵	道	溝	用	雜
沼	林	野	地	地	地	地	地	臺	道	惡	計
			敷	用	用	線	水				

五四、二八七										二七、五二五	二六、三四八〇七〇
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	-----------

〇、四〇八五	二八〇、五九六四	四一、八四九三	〇、二七二四	〇、一六〇六	二六、七四九六	〇、五三一五	一〇、七二五四	三〇、四一〇二	二、一九〇三	六、四五三五	二、三〇九五六	六、二八七六六
--------	----------	---------	--------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	--------	---------	---------

六〇、五五九七	三九〇、六五六	八、七四二	五、六二七六四	〇、二二四九			二、二六八四〇	〇、七一二七	一、三六三三九	六、四二六八	二、四四、三九四六
---------	---------	-------	---------	--------	--	--	---------	--------	---------	--------	-----------

六〇、九六八二	三三四、八八三六	八〇、九二四九	九〇、一二五	五、六三三七〇	二六、八七四五	〇、五三二五	一〇、七三五四	五、三〇九四三	二、九〇四〇	二〇、〇八六四	五〇、六一四	三四、九六〇七八二
---------	----------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	--------	-----------

第三 戸 口

戸數及人口

昭和十年末に於ける市内の戸數一八、六九九戸、人口八六、八四八人之を前年末に比すれば戸數に於て一、二二七戸、人口に於て五、二六六人の増加を示し、之等住民は労働者最も多く全戸數の三割三分を占め、商業者の一割二分、農業者一割、漁業者の六分、工業者五分、其の他三割四分の割合にあり。市制實施直後の大正十三年末に於ける戸數九、六八〇戸、人口四二、〇一九人に比較する時滿十一年後の今日戸數に於て十九割三分、人口二十割六厘と言ふ驚異的増加率を示し、市勢の膨脹に伴ひ愈々工業都市として人口は益々激増の趨勢に在り。

◇ 戸數及人口

(昭和十年末)

區	分	内地人	本島人	朝鮮人	支那人	外國人	計
戸	數	五、五六一	一三、三五四	三三	七六八	二	一八、六九九